

歴史的事象を大観してとらえ、これからの社会を

「想像し、行動する力」をもつ生徒の育成

—根拠をもとに判断・評価する学習を通して—

1. 設定理由

中学校学習指導要領社会科では「公民的資質の基礎を養う」ことを目標として掲げている。現代社会は、少子高齢社会、情報化社会、多文化社会、共生社会、グローバル化社会など多くの言葉で表現されている。現代社会の中で、国家や社会を主体的に形成するための力が公民的資質である。公民的分野で現代社会の基礎や政治・経済を学習することは大きな意味もっている。しかし、公民的資質は、公民的分野だけで養われるものではない。地理的分野や歴史的分野の学習も公民的資質を獲得していくためには重要である。歴史的事象を大観してとらえたり、多面的・多角的に考察し判断したりする力は公民的資質の一つである。なぜなら、今までの歴史を振り返りこれからの社会がどのように変化をしていくのか「想像する力」やこれからの社会をどのように創っていくか「行動する力」は、社会参画への一歩だからである。

そこで歴史的事象を大観してとらえ、多面的・多角的に考察し判断する学習を繰り返すことで、社会の変化を「想像する力」や社会を創るために「行動する力」を身につけさせたいと思い、本主題を設定した。

2. 研究仮説

- (1) 自分の考えの根拠をもとに可視化（「○△×」や「A B C D」）してまとめることを継続していけば、歴史的事象について自分の考えを構築する力が身に付くであろう。
- (2) 自分の考えをもとに話し合うことで、歴史的事象を大観してとらえ、多面的・多角的に考察する力が身に付くであろう。

3. 研究内容

- (1) 自分の考えをワークシートに可視化してまとめ、話し合い活動を行う授業実践。
- (2) 授業実践の検証

4. 結論

- 自分の考えについて根拠をもとに構築していくことで、歴史的事象を大観し考察する力を高めることができた。また、多面的・多角的な考えを身につけることができた。
- 今回の学習活動を指導計画や1単位時間の中でどのように位置付けるかが課題である。

1 研究主題

歴史的事象を大観してとらえ、これからの社会を「想像し、行動する力」をもつ生徒の育成
—根拠をもとに判断・評価する学習を通して—

2 設定理由

中学校学習指導要領社会科では「公民的資質の基礎を養う」ことを目標として掲げている。現代社会は、少子高齢社会、情報化社会、多文化社会、共生社会、グローバル化社会など多くの言葉で表現されている。現代社会は一つの側面からだけで説明することはできず、様々な事象は複雑に関連している。そして、生徒を取り巻く環境も日々変化している。現代社会の中で、国家や社会を主体的に形成するための力が公民的資質である。公民的分野で現代社会の基礎や政治・経済を学習することは大きな意味をもっている。しかし、公民的資質は、公民的分野だけで養われるものではない。地理的分野や歴史的分野の学習も公民的資質を獲得していくためには重要である。歴史的事象を大観してとらえたり、多面的・多角的に考察し判断したりする力は公民的資質の一つである。なぜなら、今までの歴史を振り返りこれからの社会がどのように変化をしていくのか「想像する力」やこれからの社会をどのように創っていくか「行動する力」は、社会参画への一歩だからである。

新学習指導要領においても「公民としての資質・能力の基礎」を育成するための方法として(1)「我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関連して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする」(2)「社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う」とある。これらは、歴史的分野の学習でも大いにいかされる。そこで歴史的事象を大観してとらえ、多面的・多角的に考察し判断する学習を繰り返すことで、社会の変化を「想像する力」や社会を創るために「行動する力」を身につけさせたいと思い、本主題を設定した。

3 研究仮説

- (1) 自分の考えの根拠をもとに可視化(「○△×」や「A B C D」)してまとめることを継続していけば、歴史的事象について自分の考えを構築する力が身に付くであろう。
- (2) 自分の考えをもとに話し合うことで、歴史的事象を大観してとらえ、多面的・多角的に考察する力が身に付くであろう。

4 研究内容

- (1) 歴史的事象について、自分の考えをワークシートに可視化し、話し合い活動を行うことで、お互いの意見を共有し、自分の考えを深めさせる。
- (2) 話し合い活動を繰り返し行うことで、歴史的事象を大観してとらえ、多面的・多角的に考察する力を育成させる。
- (3) 社会の変化を「想像する力」や社会を創るために「行動する力」が身に付いたのか学習活動の検証を行う。

5 研究の実際 根拠をもとに「評価」「判断」する学習の実践

(1) 江戸時代（2学年）

江戸の外交政策について「歴史的事象を『○△×』で『評価』や『判断』をし、その根拠となる考えをまとめる学習」を展開した。江戸幕府は対外的に鎖国体制をとり、外交は限られた国や地域のみであった。ペリーの来航は、その後におこる幕末の動乱や幕府の滅亡、明治維新につながっていき、日本が大きく変わっていくきっかけとなるできごとである。さらに、日米和親条約の後に結ばれた日米修好通商条約は、日本の外交の大きな課題になっていく。幕末から明治維新そして、明治の外交につなげるために復習の意味も含めて、江戸の外交について振り返ることにした。本来であれば、「4 開国と不平等条約」の単元は1時間で学習する。しかし、ペリー来航から開国の影響までを学習するには、1時間では学習内容が盛りだくさんになってしまう。そこで、2時間展開（表1）にして、開国の影響と幕府の外交政策を考える学習を行った。（資料編2ワークシート）

「○△×」の判断基準は、表2の通りである。生徒が判断をする内容は、すでに過去のことである。しか

し、「学習した内容を、その時の状況を想像しながら判断したり、当事者の立場に立って判断したりすることは、その時代を大観してとらえることにつながるのではないかと考え、「○△×」で「評価」や「判断」をし、根拠となる考えをまとめる方法をとった。例えば、「◎○△×」の4段階にすれば、自分の考えをよりはっきり表すことができる。あえて「○△×」の3段階にした理由は、判断のしやすさや効率を考えたためである。「限られた時間の中で、生徒が思考する場面を多く設けたい」と考えたため、今回はこのような方法をとった。生徒が自分自身の考えを深めるためには、協働学習がとても有効である。本実践では、「習得した知識・技能」を「活用」する言語活動を行った。これまでの社会科教育部会の先行研究では、

表1 単元の再構成

時数	第5章 開国と近代日本の歩み 4 開国と不平等条約 (P.131～)
1	○ペリーの来航 ○不平等な通商条約 ○開国の影響
↓	
1	○ペリーの来航 ○不平等な通商条約
1	○開国の影響 ○「江戸時代に幕府が行った外交政策について考えよう」

※教科書は、東京書籍「新しい歴史」

表2 「○△×」判断の基準

○	政策や行動について良いと思う
△	どちらともいえない
×	政策や行動について悪いと思う

表3 学習活動の流れ

(1)歴史的事象について「○△×」で「評価」「判断する」
(2)「○△×」で「評価」「判断」した「基準」を書く
(3)班の中で意見交換・班の「○△×」の集計
(4)学級に「○△×」を集計して全体化

表4 生徒への投げかけの言葉（例）

- ・すでに起こっている歴史的事象についての判断である。
- ・「○」だから良い「×」だから悪いというわけではない。「△」も大切である。判断した理由を書くことが大切
- ・どうしても難しければ、ワークシートのできごとや教科書を参考にしても良い。まずは、「○△×」を書く
- ・自分と「同じ意見」や「違う意見」を聞くことが大切。
- ・友人の意見を聞いて考え方が変わっても良い。
- ・もし気になることがあれば、質問をしてみる。

「班編制は4人編制が有効である」という方向性が述べられてきた。その成果には納得するが、今回の学習では、6人から7人の生活班を学習班として活用した。理由は「一人でも多くの考えを聞かせたい」ということと今回の言語活動は「話し合いで結論をだすこと」ではなく、「意見交換をして、一つの歴史的事象に対する意見の多様性を知り、考えを深めること」を優先させたからである。

学習の流れは、「(1)場面1『鎖国体制の完成』から場面4『不平等条約』まで、『評価』『判断』した理由を、一人ひとり順番に述べる。(2)班で意見を交換する。『○△×』を班で集計する。(4)クラスの集計をする。感想を書く」(表3)という形で行った。今回は、「評価」や「判断」をする場面が4つだったので、活動時間を20分とした。表5は、江戸時代の外交について生徒の考えをまとめたものである。同じ「評価」や「判断」でも理由が異なる場合やその逆の場合もある。また、「○」や「×」のようにはっきりとした「評価」や「判断」ができる場合もあるが、「△」のように「評価」や「判断」をするのが難しい場合もある。しかし、歴史的事象を一つの側面から見ているのではなく、多面的・多角的に見ているからこそ「△」になる場合も考えられる。学びが深くなれば安易に「○×」をつけられないことは考えられるからである。また、判断に迷う理由を書くことも生徒の思考を深めるためには大切なことである。

表5 「江戸時代の外交政策」について

	1鎖国体制の完成	2諸外国の接近	3ペリー来航	4不平等条約	感想
生徒D	X 他国との交流で得られるものは大きいと思うから、イタリアやイギリスなど力をもった国と交流した方が良かった。	X せっかく農民を引き渡して来てくれたのに砲撃するのは良くないと思った。(蚕社の鼠について) もっと国民の意見を聞くべき。	O 他国と交流するのはとても良いことで国内も刺激を受け、活性化すると考えたから。	X 不平等な条約を結んだから日本が不利になるから。	私は、今日の学習を通して、色々な意見を聞くことができた。友人の意見を聞くことで色々な見方ができてとても良かった。
生徒E	X もっと多くの国との関係を活性化させて良かったと思う。	X 処罰はやりすぎだと思う。フランス革命のように人々の考えは自由だと思うから。	O 開国した方が色々な国と貿易を行えていいと思う。物だけではなく、文化も取り入れられるのでいい。	△ 自由な貿易を認めたのは良かったが、領事裁判権を認め、開港自主権がない不利な内容なのでもう少し平等な内容にしてほしいと主張した方が良かった。	最初からもっと外国との関わりを増やし、活動(貿易など)を活性化させた方が良かったのではないかと思います。
生徒F	△ 当時の日本からしたら外国は怖かったと思うし、別に鎖国に閉じては何もないけど、日本人の母国を一切禁止するのはあんまり良い気がしないから。	X 批判しただけで処罰されるのはおかしい。理由をしっかりと聞いてから判断すべき。アメリカに助けてもらったのに砲撃をするのもちょっと「やだな」と思った。	O 積極的に外国と関わりをもつという考えは良いと思う。これから日本が発展していくと考えると、このできごとはありがたいと思う。	△ 拒否するのは日本からしたら無理なことだから、仕方ないことだとは思うけど、不利すぎる条約は「いやだな」と思った。	他人の意見を聞いてるほどと納得する部分があり、それは思いつかなかったなと感じる部分もあったので、色々な気持ちを聞いて良かったです。

また、この学習活動を行った結果、「友人の意見を聞いてなるほどと納得する場面や、『それは思いつかなかったな』と感心する部分もあったので、色々な気持ちを聞けて良かったです」「他人の意見を聞くことで『なるほど』と思うことがたくさんあり、視野が広がりました」「自分とは違う評価をしている人が多く、色々な人が様々な考え方で評価しているのでおもしろかったです」というような意見も多くみられた。生徒たちの前向きな意見から、この学習活動の有効性を感じることができた。そのため、根拠をもとに「評価」「判断」する学習を継続して実践した。

表6 集計結果の例（3年3組）

班			クラス		
O	Δ	X	O	Δ	X
2	2	0	8	14	11
1	2	1	3	10	20
1	1	2	20	8	5
0	1	3	1	9	23

（2）明治時代 （2 学年）

幕末から明治の約 50 年の間に、日本の社会は劇的に変化をしていく。明治時代は、欧米の優れた技術や制度を積極的に導入し、日本が近代国家に生まれかわり、現在の日本の礎となる時代である。そのような時代の国内の政治（内政）や外国との関係（外交）について学習していくことは、現在の日本の内政や外交を考えるうえでとても大切である。そのため、明治時代に行われた内政や外交について、根拠をもとに「評価」「判断」をする学習をさまざまな場面で設けた。（表7）しかし、この学習活動を行う場合、時間の確保が課題になる。そのため単元によって学習内容を再構成して、時間を確保した。

例えば新政府の成立では、基本的な学習をした

表7 単元の再構成

時間 (計)	2 節 明治維新（7 時間扱い）	
	前	後
1 (1)	1 新政府の成立 ・明治維新・藩から県へ・身分制度の廃止	1 新政府の成立 ・明治維新・藩から県へ・身分制度の廃止 +明治の政治について考えよう1
1 (2)	2 明治維新の三大改革 ・富国強兵・学制の公布・徴兵令・地租改正	3 世界とつながる日本と文明開化 ・進む世界の一体化・文明開化・新しい思想
2 (4)	3 世界とつながる日本と文明開化 ・進む世界の一体化・文明開化・新しい思想 4 岩倉使節団と殖産興業 ・岩倉使節団・殖産興業と日本への関心 ・北海道の開拓とアイヌの人々	4 岩倉使節団と殖産興業 +3 明治維新の三大改革 ・岩倉使節団・富国強兵・学制の公布 ・徴兵令 ・地租改正・殖産興業と日本への関心 ・北海道の開拓とアイヌの人々 +明治の政治について考えよう2
1 (5)	5 近代的な国際関係 ・沖縄県の設置・新と朝鮮国との関係 ・欧米との関係	5 近代的な国際関係 ・沖縄県の設置・新と朝鮮国との関係・欧米との関係 +明治の政治について考えよう3
1 (6)	6 自由民権運動の高まり ・自由民権運動の始まり・土族の反乱 ・高まる自由民権運動	6 自由民権運動の高まり +7 立憲国家の成立 ・自由民権運動の始まり・土族の反乱 ・高まる自由民権運動+憲法の準備
1 (7)	7 立憲国家の成立 ・憲法の準備・立憲国家の成立 ・帝国議会の成立	7 立憲国家の成立 ・立憲国家の成立・帝国議会の成立 +明治の政治について考えよう4

後「明治の政治について考えよう1」（資料編3ワークシート）として「評価」「判断」をする学習を設けた。判断をする場面は5つ（表8）あったため、時間は25分をめやすとした。比較的、判断をしやすい内容だったためスムーズに学習活動を行うことができた。表10は生徒の考えを抜粋したものである。新しい時代の始まりについて、好意的な意見が多かった。しかし、場面5の藩閥政治については、生徒Gのように藩閥政治において疑問をもった視点で考えを述べている生徒もいた。明治時代の学習では、このような学習活動を合計5回行った。繰り返して学習を行うことで、最初は「○△×」の記述のみで根拠となる考えを書けなかった生徒も、少しずつ自分の考えを書けるようになった。また、友人の様々な意見を聞くことにより記述の内容がより具体的になってきた。

表8 「明治時代の政治について考えよう その1」の評価場面

場面1	1868年新しい政治の方針である「五箇条の御誓文」をだす。
場面2	年号を明治に改め、江戸を東京として新しい首都にする。
場面3	版籍奉還→廃藩置県
場面4	厳しい身分制度をなくす。→四民平等
場面5	薩摩・長州・土佐・肥前の4藩の藩閥政治

表9 「明治の政治について考えよう1」の生徒の考え（一部抜粋）

	場面1	場面2	場面3	場面4	場面5
生徒G	○ <u>世論を大切に国を発展</u> させようとするのは良いと 思う。	○ <u>心機一転のよう</u> でいい と思う。人前を変えるこ とによって <u>新しいこと</u> <u>が始まる</u> と期待する と思うから。	○ 支配されなくて、少し解放 感がある。	○ 人間はみな平等だから。	△ 新しい政治を行うのは良い と思うが、 <u>少ない人数で行</u> <u>うとまた政治が偏ってしま</u> <u>うのではないかと不安</u>
生徒H	○ <u>新しい世の中にしよう</u> と良 い方針をだした。	○ <u>時代の大きな変化があ</u> <u>らわれて良い</u> と思う。	△ 新しくするのは良いが、わ ざわざ変えることもない。	△ 武士はかわいいそうだけど、 平等にするのは良い。	○ 昌幸できる人を選んだのは 良いと思う。
生徒I	○ そろそろ日本も外国との仲 を深めて、世界になじんで いった方がいいと思うか ら。	○ 年号を変えるのが <u>歴史</u> <u>の節目としてふさわし</u> <u>い</u> と思う。江戸という、 栄えていたところを拠 点とするなら発展しや すいと思う。	○ 社会に <u>新しい流れ</u> ができ ると思うから。	○ 自由ができ、それにより <u>新</u> <u>しいことが生まれるかもし</u> <u>れない</u> し、何より人間関係 に自由ができたから、不便 なことはなくなった。	○ 倒幕した人たちのだから 良いと思う。それに、人々 にとって良いことをしたか ら。
生徒J	○ 国を発展させ、日本に良い 影響をもたらしたから。	○ 人々が新しい政治に期 待しているから。	○ このことと同時に政府のし くみが強化できたから。	△ 解放令が出されても、 <u>まだ</u> <u>差別的なことが多い</u> から。	○ それぞれの藩の出身者たち が実験をにぎったことは、 <u>全体のまとまりがなくなる</u> <u>と思う</u> から。
生徒K	○ 外国との交際を深めて良い と思うから。	○ <u>新しい政治の第一歩が</u> <u>踏み出せた</u> と思うから。	○ 藩から県に変わり、政治が 良くなったと思う。	○ 平等になって良かったと思 う。	△ 他の藩がかわいいそうだけど 話し合いが早くて良い。

明治のまとめの学習として、「今までの学習を通して明治の政治について評価してみよう」という学習を展開した。内政と外交について今までの「評価」や「判断」を振り返りながら行った。（資料編4ワークシート）この学習については、「○△×」ではなく「A B C D」の4段階で「評価」や「判断」をさせた。理由は、時代のまとめの学習なので、自分の考えをはっきりさ

せたかったからである。
内政の評価項目は、「開国後の日本を豊かにしていくために政治を行っていたか」、外交の評価項目は、「国際社会において、日本の地位を確立し、他の国と協力関係を築くことができたか」である。表 11 は、クラス毎の集計結果である。明治の政治について内政や外交とも全体的に評価が高かった。内政については、AやBという評価が多かった。評

価がAの生徒は「現在の日本に大きく関わる場所」「今の日本につながるような変化」という点を評価しているからであろう。評価Bの生徒は、評価Aの生徒と同様の視点で述べているだけではなく、社会問題や国民の負担が増加したことなどの視点を加えている生徒もいた。CやDの生徒は、全体的なとりくみをとらえるのではなく、一部の政策を見て判断している場合が多くみられた。これらの生徒は、歴史的な事象を大観してとらえるまでに至っていないということがいえる。表 12 は、「明治時代の内政」についての生徒の意見である。

表 10 単元の再構成

時間 (計)	3 節 日清・日露戦争と近代産業（7 時間扱い）	
	前	後
1 (3)	3 日露戦争 ・義和団事件・日露戦争 ・日露戦争後の日本	3 日露戦争 ・義和団事件・日露戦争・日露戦争後の日本 + 明治の政治について考えよう 5
1 (7)		7 今までの学習を通して、 明治の政治を評価してみよう。

表 11 明治の政治についての評価結果

組	3 年 1 組				3 年 2 組				3 年 3 組			
評価	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
内政	10	22	3	0	10	19	5	1	12	21	1	1
外交	1	24	9	1	9	15	10	1	10	15	10	0
A 評価する B どちらかという評価する C どちらかという評価しない D 評価しない												

表 12-1 「明治時代の内政と外交」について 「内政」

評価	生徒の記述
A	「五箇条の御誓文」をだすなどして、 <u>新しい政治に向けての準備が整って</u> いて、藩閥政治によりまとまって政治が行われていくようになったから。また、 <u>日本を豊かにするためにたくさんの決断があった</u> から。
B	<u>新しい文化がうまれたり、ルールが決められたりして、今の日本につながるような変化があったから。日本が大きく変わった。</u> <u>日本を少しでも良くしようと改革を進め、外国と肩を並べるようになったのはすごいと思う。そして、その背景には国民の努力もあったと思う。変わるためには犠牲が必要になるけど自分たちなりのルールをつくってより利便性が高いものを選んでいくところがこの時代の良い点だと思う。しかし、力をつけていくにつれて、強い人が弱い人に無理させたり（労働時間、女性、子ども）環境まで目を配れなかったりしたのが少し残念だった。国やその時代の特色ごとに広い視野をもった方が良かったと思った。</u> <u>多くのものが発達し、多くの法律ができたなかで国内は前の時代より豊かになったので良いと思うが、中には国民の負担になるようなものがあった。国民の負担になったら元も子もないと思った。しかし、場合によってはそのような負担も仕方ないのかなと思う。</u> <u>日本を発展させようとしてがんばっているように感じた。しかしそれは普通の人々に苦になっているように感じた。四民平等も表面だけで実際はそんなに変わっていないと思う。この時代が今の時代に一番ぐっと近づいた時代だと思った。とても進歩したと思った。だがその分苦勞している人が裏にはいることを知った方が良かった。全体が幸せに暮らせるまでには、まだまだ遠い。</u>
C	<u>産業の発展は良いと思う。低賃金や長時間労働は日本のためになったが、労働者にとっては納得のいかないことであったと思う。</u>
D	<u>学制も6歳以上すべての男女と決めつけがない方が良かったと思った。</u>

表 12-2 「明治時代の内政と外交」について 「外交」

A	日本にとって不利だった条約を改正することは日本が豊かになったことから良いと思う。周辺の国々との関係を築くことで他の国の良い所を取り入れられることができた。
B	不平等な条約を押しつけられてきた日本がここまでできたのはすごいし、現代での良好な関係を築けるようになったのはがんばったと思う。ただ、それは欧米との関係で、東アジアの国には一方的に押しつけたりいやな思いをさせたりしていた。自分たちの国を発展させたのはいいけどその考えだけで周辺国にこのようなことをするのはやりすぎだと思う。(果たしそこまでする必要があったのだろうか?) 日本を豊かにしようとしたのは良いと思うが、力で人の心をしぼるのは良くないと思った。韓国併合など自分たちのやり方だけで、その国の伝統もうばってしまうのは良くないと思った。しかし、条約改正もできたのは日本人の被害を防ぎ他国の理不尽な命令を聞くことも少なくなるので、日本のメリットは大きかったと思う。
C	不平等条約の改正などで日本の地位を確立することはできたけど、戦争などの国民の負担は大きく、戦争でなくなった人々のことも忘れてはいけないことだから。 日本の地位を確立したけど、他の国とは協力関係はあまり築けていないと思う。力で押さえつけているのは協力ではなく、従わせているだけ。不平等条約の改正は良いと思う。あと、戦争はよくない。
D	自分たちがどう思っているかやはり、戦争はよくないことだと思う。植民地化も日本の文化を押しつけている感じで嫌だった。

外交については、AやBという評価が中心だったものの、Cという評価をつけた生徒が増えた。Aと評価した生徒は、不平等条約の改正や欧米諸国との関係が築けたこと、国際社会の地位が向上したことを述べていた。BやCと評価した生徒は、不平等条約の改正や国際社会で地位が向上したことは評価できるが、日清・日露戦争や東アジア諸国との関係について述べていた。BとCの違いは、評価すべき点とそうではない点のどちらに重きをおいているかの違いである。これまでの学習で「○△×」で評価してきた内容を「A B C D」の4段階で評価することで、より自分の考えや立場を明確にすることができた。

(3) 近現代の政治 (3 学年)

根拠をもとに「評価」「判断」する学習のまとめとして、大正から昭和についても実践した。特に「激動の昭和」とも例えられる昭和は、戦前と戦後では国内の政治や人々の暮らし

表 13 近現代の政治についての評価結果

組	3年1組				3年2組				3年3組			
評価	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
内政	2	23	9	0	4	28	3	1	7	19	8	0
外交	2	21	9	2	1	22	12	1	2	14	17	1

し、外国との関係が大きく変化をしていく時代である。現在の私たちの暮らしは、昭和におこった様々な事象を礎にして成り立っている。昭和について振り返ることは、現在の私たちの暮らしを見つめ直すきっかけになるため、とても大切なことであると考え。これまでの学習と同様に単元を再構成して、様々な場面で「○△×」の3段階で「評価」や「判断」をした。そして、最終的に昭和の内政と外交について、「A B C D」の4段階で「評価」や「判断」をした。(資料編5ワークシート・資料編6指導案・資料編7「生徒の記述」) 表13は評価結果、表14は、生徒の記述である。

近現代の内政と外交については、全体的にBやCと評価をする生徒が多かった。戦中のできごとと戦後のできごとのどこに重点をおいて考えたかによって、BとCの違いがみられた。Bという評価が最も多かった理由は、戦中についての反省を述べながらも、その後の日本の復興について評価している記述が多く見られた。Cと評価をした生徒は、戦中の歩みやまだ完全には回復できていない周辺諸国との問題を述べている意見が多くみられた。この結果は、歴史的事象を一つの側面から見ているのではなく、多面的・多角的に見ているからこそその意見であると考えられる。また、生徒も歴史の多面性について気づくきっかけとなったのではないだろうか。

表 14 「近現代の内政と外交」について 内政

評価	生徒の記述
A	GHQの改革後日本が平和だったのは、 <u>日本の政府がしっかりと政治を行い、コントロールできていた証拠。</u>
B	大戦中は総力戦で、生活は苦しくなる一方だったから。しかし、その後の<u>日本国憲法の基本原理を大切にしてい</u>く世の中になったから。また、<u>他国との国交が回復してい</u>き、<u>日本の地位もだんだん上がっていった</u>から。 この時代の日本は、とても進歩していった。しかし、<u>豊かではない時もあったのでそれは良くなかった</u>。特に戦争中は国民にも負担をかけたと思う。しかし、<u>その後の経済復興の早さはすごい</u>と思った。
C	戦時中の国内は様々な苦難があり、日本に利益はなく、民間人に大きな影響を及ぼした。しかし、<u>民主化や日本国憲法などで日本は大きく変化していった。</u> 最終的に<u>経済が復興したのは良かったが</u>、他の国とうまいいかず、国民がすごく苦しむ時代があったので、もっと違った良い方法であらゆる問題を解決すべきだったと思う。
D	日本を豊かにしようとしていたとはいえないことをたくさんやってきたから。

外交

A	戦中はどん底の日本でしたが、<u>1950年代にはサンフランシスコ平和条約や国際連合への復帰、韓国や中国と一つ一つ他国との協力関係を築くことができた</u>から。 大正デモクラシーや社会運動など国民の動きが活発になり良い雰囲気になっていったから。戦争や公害問題など人々が苦しむ時もあったが、<u>それら乗り越えて高度経済成長をとげた日本は、とても成長した</u>なと思ったから。これらのことをきっかけに、国民は日本をもっと豊かにしようと思えることができたことが素晴らしい。
B	戦争が起こったとは良くないが、<u>その反省を生かして他の国と協力関係を築くことができたし、世界平和もめざすことができた</u>のではない。 世界恐慌から第二次世界大戦のころは、<u>他の国とあまり協力関係を築くことができずに孤立してしま</u>った。戦後は、<u>国際社会の復帰をめざしていろいろな国との関係を改善していった</u>から。
C	戦争があり、<u>他の国との協力関係を築くことができない</u>と思ったから。戦後は、<u>色々な国との条約を結んで少しは、関係を築くことができていた</u>。しかし、<u>北方領土や米軍基地などの課題も残っている</u>。 一度国際連盟から脱退しているから。日ソ共同宣言をきっかけに<u>国際連合に加盟することができ、他国と関係を再構築しているが、一度崩れた関係を戻すのは大変なこと</u>だろうから。
D	戦争をする中で地位を確立するのは間違いで、 <u>和解する条約を結んでも協力関係を築けるわけがありません</u> 。何でも武力で解決するのはダメなこと、国民にも迷惑がかかります。なので、戦争をしてしまった時点で他の国との協力関係を築けることはないと思ったからです。

6 研究のまとめ

(1) 仮説の検証

「根拠をもとに判断・評価する学習」について、「レベル1 学習した社会的事象（語句や内容）を使い考えることができる」「レベル2 自国の視点や自分の価値観で考えることができる」「レベル3 自国の視点や自分の価値観だけではなく、他国の事象と関連付けたり、過去のできごとと比較して考えたりすることができる」の3段階フィルターで生徒の変容を計った。

表15のように、学習を繰り返していく中で、歴史的事象について、自国の視点や自分の価値観で考えることができる生徒が増えたことがわかる。また、内容も多面的・多角的な視点から考えられることが多くなった。表16は、フィルターのレベル2と3の例である。

表15 生徒の変容（人）

レベル	江戸	明治	近現代
1	57	29	6
2	44	56	74
3	6	22	27

表16 レベル2とレベル3の例

レベル	江戸	明治	近現代
2	お互いの国が良い気持ち（平等に）で外交することはできないのかなと思った。	条約改正をして、日本が近代国家に近づけたのは良かったが、武力で物事を進めていくのは、日本にも悪影響があるので、そこまで良くないと思った。	戦争がおこるのは良くないが、その反省があったからこそ他の国と協力関係を築くことができたし、世界平和もめざすことができたのではないかなと思う。
3	鎖国はメリット（国産品が売れる・独自の文化）があったと思うが、その分発展が遅れたということがわかった。もっと世界の意見に積極的に耳を傾けてほしかったです。	国内の発展を進めていき、外国と対等に渡り合えていけるようになったから、しかし、 <u>外国の文化を尊重できなかったのが残念だったと思う。</u>	国の地位や権力のために外国をおびやかしてしまったことは永遠に繰り返さぬように意識しなければならない問題だと思う。また、条約を結んでいるものの、日本に対して <u>良い感情をもっていない東アジアの人々もいるので、それも解決すべき課題だと思う。</u>

表17 学習活動における生徒の変容

生徒	幕府の外交政策 場面 鎖国体制の完成	20世紀前半の日本 場面 大正デモクラシー	20世紀後半の日本 場面 戦後経済の復興
L	<u>そこまで外国との関わりをなくす必要はないと思うし、日本人の帰国を許さないというのはおかしいと思ったから。</u> （△）	<u>それだけ人々が自分の意見を言えるようになったことは良いと思う。選挙権が与えられる人が増えたことは良いと思う。ただ、なんでそんなに治安維持法で取り締まっていた必要があったのか疑問に思った。（考え方は人それぞれだから）</u> （○）	経済は成長できたが、その影響で様々な問題がおこったので△。これも自分たちの利益を優先させて周りを考えなかった結果だと思う。石油危機で混乱したことから日本には、資源が少なく他の国の影響をダイレクトに受けていると思った。（△）
M	<u>海外渡航を禁止と中国・オランダだけと貿易は良いけど日本人の帰国禁止とかはやりすぎだと思う。</u> （△）	<u>自由主義の風潮が高まるのは良いと思う。社会運動をおこし不満を声に出してあげるのはとても良いと思う。女性に選挙権がないのがおかしい。平等にすべき「だから不満がつもるんだよ」と思った。</u> （△）	戦後色々な混乱はおきたが、高度経済成長をしたので良かった。もっと環境を考えて行動すれば公害が流行することもなかったのかなと思った。環境庁などが設置されて良かった。（△）
N	色々なものをとり入れた方が良いと思う。（×）	<u>女性には選挙権がないなど差別的な考えは良くないと思う。だが、平塚らいてうが新婦人協会を設立し、女性の中などをとめる運動は良かったと思う。差別的な考えがなくなるきっかけになったと思う。</u> （△）	<u>日本のGNPがアメリカに次いで2位になったことはすごい。バブル崩壊で安定してきていた日本の経済が少し不安定になったから。</u> （△）

表 17 は抽出生徒 3 人の思考の変容である。生徒 LMN は、それぞれ上位、中位、下位の生徒である。「鎖国体制の完成」は、「根拠をもとに判断・評価する学習」の最初の質問内容である。「戦後経済の復興」は、終盤の質問内容である。学習を継続して行ったことにより、歴史的事象について考察する力が向上したことがわかる。

表 18 「近現代の政治」について生徒の自由記述

生徒 O	今まで「戦争は絶対におきてはいけない」としか思っていなかったが、今回の学習を通してその反省があったからこそ、世界平和をめざすことができたり、他国との関係がより良いものになったりと少しはメリットがあるということを初めて知った。 <u>今、このように平和に暮らしているのは昔の人々のおかげということを感じることができた。</u>
生徒 P	国内政治や外国との関係など、この時代は日本にとって苦しい時代だと思った。さらに、昔の日本は利益を得るために手段を選ばない国に感じた。また、今の世の中になっても核開発やテロ・紛争・貧富の差も激しいと感じた。まだ戦争の怖さを知らない人がいるなら、 <u>私たちが戦争によって大切なものが失われるという事実を伝えたいと思った。</u>
生徒 Q	戦争があったからこそ日本は平和の大切さに気づいたが、たくさん失うことがある前に、戦争をせずに平和の大切さや民主主義に気づけば良かったと思います。今戦争の恐ろしさを知る人が減ってきてしまっているので、戦争が起こる前に「平和」に立ち戻れるよう、 <u>民主主義である日本の最高権力者（主権者）である私たちが勇気をもった行動や言論ができるようになりたいと思いました。</u>
生徒 R	今まで過去の内政にしか目を向けていなかったため、 <u>今回の学習で現在の日本の内政について考え、まとめることができて良かったと思います。</u>

また、近現代の政治について生徒の自由記述の内容から歴史的事象を大観してとらえているようすが多くうかがえた。(表 18) 生徒 O は、過去の歴史のうえに自分たちの生活が成り立っていることを述べている。また、生徒 P や生徒 Q は、現代社会の課題をふまえ自分自身が果たす役割について述べている。さらに生徒 R は、学習したことを生かし、現在の日本の政治について視点を向けることの大切さに気づくことができた。

(2) 成果

自分の考えについて根拠をもとに構築していくことで、歴史的事象を大観し考察する力を高めることができた。また、話し合い活動を継続して行う中で、多面的・多角的な考えを身につけることができた。ワークシートを用いて、思考を可視化したことにより、生徒が考えている内容を把握することができた。

現代社会における様々な課題を解決するには、生徒の柔軟で純粋な発想も必要だと考えている。生徒が自由に自分の考えを発表できる場所を設定することや生徒の発想に目を向けることも大切である。今回の成果を、公民的分野の学習にも応用していきたい。

(3) 課題

指導計画の中で、今回の学習活動を指導計画や 1 単位時間の中でどのように位置付けるかが課題である。話し合い活動も班での話し合いが中心になり、それをクラスで共有する時間はなかなか確保することができなかった。他の班の意見を聞く機会をもっと設けることができれば、より効果的な学習に繋がったであろう。今回の活動を発展させる方法として、「同じ『判断・評価』で話し合う」「異なる『判断・評価』で話し合う」ことや「最後に再び『判断・評価』する」ことも考えられる。議論を深めるという点では、まだまだ課題が残るため、今後更に工夫・改善をしていきたい。

資料編

1	時代を自分の言葉で説明する学習の実践	．．．．	1
2	ワークシート	．．．．	2～6
3	「近現代の政治について評価してみよう」指導案（略案）	．．．．．	7
4	『近現代の政治』を評価してみよう」生徒の記述	．．．．	8～9

資料1 時代を自分の言葉で説明する学習（室町時代 1学年）

思考を可視化する手立てとして、「時代を自分の言葉で説明する学習」を行った。室町時代は、1年生で学習する歴史的分野の最後の単元である。「ある時代について自分の言葉で説明することができれば、その時代について大観してとらえていると言えるのではないか」と考え、その時代の特徴について説明する授業を展開した。ワークシート（資料編ワークシートI）に自分の考えをまとめ、「(1)初めに自分の言葉でまとめる→(2)その時代のキーワードをまとめる（教科書やノート資料集を見てもよい）→(3)最後にもう一度まとめる→(4)発表をする」という形で行った。

「時代を自分の言葉で説明する学習」での生徒の思考の変化

	初めに説明する場面	時代を表すキーワード	もう一度説明する場面
生徒A	室町時代は、能、狂言、書院造などの文化が発展したが、数々の戦乱が起きたりした時代。	・足利尊氏・室町幕府・足利義満・勘合貿易・明・朝鮮国・ハングル文字・琉球王国・アイヌ民族・足利義政・応仁の乱・座・惣・土一揆・戦国時代・戦国大名・金閣・銀閣・書院造・水墨画・南北朝	室町時代の初めは、南北朝の戦乱の時代で、中ごろは他国との貿易を盛んに行った。能、狂言、書院造などの文化が発展したが、農民たちが土一揆を起こしたり、応仁の乱が起こったりした戦乱の時代となった。
生徒B	京都に室町幕府ができた時代。 京都に金閣・銀閣がつけられた時代	・足利義満・義政・金閣・銀閣・能・水墨画・雪舟・狂言・御伽草子・倭寇・明・日明貿易・座・惣・アイヌ民族・朝鮮国・琉球王国・応仁の乱・土一揆	京都に室町幕府ができた時代。日明貿易で、色々な物を輸入したことで日本の経済や文化に大きな影響を与えた時代。公家の文化と武士の文化が融合した北山文化がうまれた時代。簡素で気品のある東山文化がうまれた時代。応仁の乱で終わった時代。
生徒C	応仁の乱があり、能や建造物などに大きく関わっている時代。 蝦夷地や朝鮮などと貿易をしはじめた時代。	・足利氏（義満・義政）・応仁の乱・アイヌ民族・能・狂言・水墨画・悪党・鹿政令・後醍醐天皇・京都に幕府がおかれる・室町幕府・蝦夷地・琉球王国	足利尊氏や後醍醐天皇によって、1333年に鎌倉幕府が滅びた。尊氏は、1338年に征夷大將軍に任命されて室町幕府を開く。京都に幕府をおいた時代を室町時代という。 土倉などの金融業者を保護して、そこからの税で豊かになる。中国・朝鮮・蝦夷地・琉球などと貿易を行う。
生徒D	足利義満が征夷大將軍になり金閣を建てる。守護大名の登場・建武の新政	日明貿易・後醍醐天皇・南北朝・金閣・銀閣・室町幕府の滅亡	足利尊氏が征夷大將軍となって室町幕府を開く。義満が南北朝を統一する時代。義満は金閣を建てた。

生徒Aは、社会科の力が上位の生徒、生徒B、Cは中位の生徒、生徒Dは下位の生徒である。当然のことながら、キーワードをまとめたり、調べたりしてからの説明の方がより具体的になった。この授業を実践は、単元の最後に実施したので既習の知識で十分その時代の特徴を説明できると考えていた。しかし、実際は十分に活用できていない生徒が多かった。また、キーワードを整理しても説明する事象が「政治」「文化」「貿易」などの箇条書きに終わってしまうことが多かった。そのため、「(1)その時代のキーワードをまとめる→(2)その時代の特色を自分の言葉でまとめる→(3)友人の意見を聞いた後にもう一度まとめる」という学習過程をとるべきであったと反省している。また、テーマをいくつかしぼって提示した方が、生徒にとっては説明がしやすかったと思う。この反省をいかし、江戸時代の政治からテーマを「内政」と「外交」に絞り「根拠をもとに『評価』『判断』する学習」を実践した。

資料2 ワークシート

江戸時代に幕府が行った外交政策（外国との関係）について考えよう。

2年組番名前

(1) 幕府の判断や行動を評価してみよう。その理由も記入しよう。

① 鎖国体制の完成（教P.108～109）



- 1635年 徳川家光が日本人の海外渡航を全面的に禁止して朱印船貿易を停止した。
- 海外に住む日本人の帰国をいっさい禁止した。
- 長崎に住んでいたポルトガル人は出島に移動し、日本人と交流できないようにした。
- 1639年、ポルトガル人を追放し、1641年には平戸のオランダ商館を長崎の出島に移した。
- 中国船とオランダ船だけが長崎で貿易を許されることになった。

評価○△×	理由

② 諸外国の接近→異国船打払令をだす。（教P.122～123）

- 1792年、ロシアの使節ラクスマンが横濱に来航し、漂流民大黒屋光太夫を送り届け、通商を求めたが、回答を先延ばしにした。1804年、長崎に来たレザノフに対して「突然のある結核、破壊や貿易をしているオランダや中国以外とは関係をもたない」と断った。
- 19世紀になると、ロシアやイギリス・アメリカの船が日本に近づくようになる。
- 1808年、イギリスの軍艦が長崎に侵入する事件「フェートン号事件」がおこる。
- 1825年、幕府は「異国船打払令」をだした。
- 1837年、漂流民を引寄せようとしたアメリカの商船を砲撃する「モリソン号事件」がおこる。

○「異国船打払令」を批判した蘭学者の渡辺崋山と高野長英が処罰される（彦根の獄）

評価○△×	理由

資料3 ワークシート 明治時代の政治について考えよう。その1

2年組番名前

明治維新	日本を近代国家にするために行われたさまざまな改革と、それにもたらした社会の動き。御一新
------	---

(1) それぞれの政策について評価してみよう。

① 1868年新しい政治の方針である「五箇条の御誓文」(教P.146)をだす。

○世襲を大切にして政治を進める、外国との交際を深めて国を発展させるなど

評価○△×	理由

② 年号を明治に改め、江戸を東京として新しい首都にする。

評価○△×	理由

③ 1869年、土地と人民を政府に返す（版籍奉還）→1871年、地方制度を改め、藩を廃止して県を置く（廃藩置県）

○1871年 本斐連島、印旛郡、新治郡

↓
1873年 千葉県の誕生!! + 1875年 香取・匝瑳・海上
☆初代県令 泉原和（しばはら やわら）

評価○△×	理由

③ ベリー来航「開国」へ（教P.142）

○1853年、アメリカの東インド艦隊司令長官ペリーが開国を求めた。翌1854年、ペリーと「日米和親条約」を結び開国をした。

○オランダ、ロシア、イギリスとも同様に条約を結んだ。

評価○△×	理由



④ 日本にとって不利な条約を結ぶ（教P.142～143）

○アメリカは貿易を始めるため、通商条約を強く求めた。1858年、幕府は「日米修好通商条約」を結び、函館、神奈川、長崎、新潟、兵庫の5つを開いて自由な貿易を認めた。○日米修好通商条約は、領事裁判権を認め、開港自主権がない不利な内容を含んでいた条約だった。

○オランダ、ロシア、イギリス、フランスとも同様に条約を結んだ。

評価○△×	理由

(2) 班のメンバーの意見をまとめてみよう。

	さん	さん	さん	さん	さん	班			クラス		
						○	△	×	○	△	×
場面1											
場面2											
場面3											
場面4											

(3) 今日の学習を通して、幕府の外交について思ったこと感じたことを書いてみよう。

④ 厳しい身分制度をくずす。→四民平等（教P.147）

○皇族以外は全て平等 ○平民も名字を名乗り、無類や士族と結婚が可能に。

○住む場所や職業の制限もなくなる。

○武士の象徴である「ちょんまげ」や「帯刀（刀を持つこと）」が禁止される。

○1871年、「えだ身分」「ひにん身分」の呼び名を禁止し、平民と同じとする「解放令」がだされる。

評価○△×	理由

⑤ 倒幕の中心勢力であった少数の公家や儒學、長州、土佐、肥前の4藩の出身者たちが政治の実権をにぎる。「藩閥政治」(教P.147)

評価○△×	理由

(2) 班のメンバーの意見をまとめてみよう。

	さん	さん	さん	さん	さん	班			クラス		
						○	△	×	○	△	×
場面1											
場面2											
場面3											
場面4											
場面5											

(3) 今日の学習を通して、明治の政治について思ったこと感じたことを書いてみよう。

① 岩倉使節団欧米へ

- 岩倉具視を全権大使とする使節団を欧米へ派遣。
- 欧米の進んだ政治や産業、社会の状況を直接体験する。
- 不平等条約の改正は失敗
- 欧米との力の差を目の当たりにし、国力の充実が必要であると感じる。
- ★わずか6歳で参加した「津田梅子」は千葉県出身。
- やがて女子英学塾を開く（のちの「津田塾大学」）



評価○△×	理由

② 1872年、6歳以上男女すべてに小学校教育「学制」

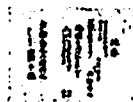
評価○△×	理由

③ 1873年、満20歳になった男子に兵役の義務「徴兵令」

評価○△×	理由

④ 税制の改革一地価の3%（やがて一揆により2.5%に）を現金で納める「地租改正」

評価○△×	理由



⑤ 近代的な産業を育てることで「富国」を実現するため「殖産興業」を進める

- 1872年新橋、横浜間に鉄道が開通。
- ★1897年5月1日 佐倉〜成東駅 6月1日 成東駅〜熊手崎 一横芝駅誕生！！
- 飛脚にかわり郵便制度や電信網が整えられる。→国産郵便や電信事業にも参加
- 「官営横瀬工場」をつくり、新しい技術の導入や開発に努める。
- 外国の優れた技術者を招く

評価○△×	理由



富岡製糸場（群馬県）
官営横瀬工場の代表
2014年に
「富岡製糸場と絹産業遺産群」
として世界遺産に登録される。

(2) 班のメンバーの意見をまとめてみよう。

	さん	さん	さん	さん	さん	さん	班			クラス		
							○	△	×	○	△	×
場面1												
場面2												
場面3												
場面4												
場面5												

(3) 今日の学習を通して、明治の政治について思ったこと感じたことを書いてみよう。

--

(1) それぞれの外交政策について評価してみよう。

① 周辺の国々との関係 →日本の国境が確定していく（教P.154、155）

- ①1871年、清と「日清修好条約」を結ぶ。★外国と結んだ初めての対等な条約
- ②1876年、小笠原諸島の領有が決定。
- ③1875年、ロシアと「樺太・千島交換条約」を結ぶ。
- ④1879年、沖縄県を設け、（琉球処分）
- ★琉球の人々は反対していた。しかし、軍艦の力を背景に・・・（その後の沖縄は？）

評価○△×	理由

② 朝鮮国との関係をめぐる対立がおこる。それぞれの立場について考えてみよう。



- ①西郷従道・板垣退助の立場 「征韓論」
「朝鮮に使節を派遣し開国せよ。」★武力をもちいて・・・
- ②岩倉具視・大久保利通たちの立場
「国力の充実が先だ」★岩倉使節団→欧米との力の差を目の当たりにした・・・
→結果政府が分裂し、西郷従道と板垣退助は政府を去った。（「明治六年の政変」）
★このあとの二人の運命は・・・（教P.156～）

①征韓論 ○△×	理由
②岩倉たち ○△×	理由

③ 1875年、「江華島事件」をきっかけに朝鮮を開国させる。（教P.155）

- 江華島事件をきっかけに、朝鮮国と「日朝修好条約」を結び、朝鮮を開国させる。
- 朝鮮国には不平等な内容の条約だった。★不平等条約といえは・・・
- 朝鮮に対する主権をめぐり、清（中国）との対立が深まっていた。★やがて・・・
- 欧米型の外交関係をアジアに持ちこみ、中国を中心とする伝統的な国際関係とは違ったので。★今までの東アジアの国際関係を振り返ってみるとわかんと思います。

評価○△×	理由

(2) 班のメンバーの意見をまとめてみよう。

	さん	さん	さん	さん	さん	さん	班			クラス		
							○	△	×	○	△	×
場面1												
場面2 征韓論												
場面2 岩倉												
場面3												

(3) 今日の学習を通して、明治の政治（外交）について思ったこと感じたことを書いてみよう。

--

2年 組 番 名前

(1) それぞれの政策について評価してみよう。

① 1889年、大日本帝国憲法の制定（教P.158）→法制度の整備

- ①天皇が国の元首として定められる。君主権の強いドイツ（プロイセン）をモデル。
- ②帝国議会の召集、解散、軍隊の指揮、条約の締結、文職権などが天皇の権限となる。
- ③国民は「臣民」とされ、「法律の範囲内」での権利が認められた。
- ④「民法」や「商法」などさまざまな法律が整備された。
- ⑤1890年、「教育勅語」がだされ、忠君愛国の道徳が示され、教育の柱となる。

評価○△×	理由

② 1890年「第1回 帝国議会」が開催される（教P.159⑤）

- ①貴族院 → 皇族・華族や天皇が任命した議員からなる。
- 衆議院 → 国民が選挙した議員からなる。
- ②選挙権 → 直接国税15円以上納める25歳以上の男子 → 総人口の1.1%
- ★当時の選挙は、権利をもつ者が限られる「制限選挙」だった。

比較してみよう★現在の選挙権は、18歳以上のすべての男女

評価○△×	理由

(2) 班のメンバーの意見をまとめてみよう。

	さん	さん	さん	さん	さん	さん	班			クラス		
							○	△	×	○	△	×
場面1												
場面2												

(3) 今日の学習を通して、明治の政治（議会政治のはじまり、アジアで最初の近代的な立憲国家になったこと）について思ったこと感じたことを書いてみよう。

資料Ⅲ ワークシート

◎今までの学習を通して、「明治の政治」を評価してみよう。

2年 組 番 名前

★いよいよ2年生の歴史の総まとめです。3年生の学習につなげるために、日本の国が大きく変化した明治という時代を振り返ってみましょう。

国内の政治（今までに判断した内容）

- 1868年新しい政治の方針である「五箇条の御誓文」（教P.146）をだす。
- 年号を明治に改め、江戸を東京として新しい首都にする。
- 1869年、土地と人民を政府に返す（版籍奉還）→1871年、地方制度を改め、藩を廃止して県を置く（廃藩置県）
- 厳しい身分制度をくずす。→四民平等（教P.147）
- 国幣の中心勢力であった少数の公家や豪族、貴族、士族、肥前の上層の出身者たちが政治の実権をにぎる。「藩閥政治」（教P.147）
- 1872年、6歳以上男女すべてに小学校教育「学制」
- 1873年、満20歳になった男子に兵役の義務「徴兵令」
- 税制の改革→地価の3%（やがて一歩により2.5%に）を現金で納める「地租改正」
- 近代的な産業を育てることで「富国」を実現するため「殖産興業」を進める
- 1889年、大日本帝国憲法の制定（教P.158）→法制度の整備
- 1890年「第1回 帝国議会」が開催される（教P.159）

A 評価する B どちらかという人评价する C どちらかという人评价しづらい D 評価しづらい

評価項目	A B C D
○開国後の日本を豊かにしていくために政治を行っていたか。	
理由	

2年 組 番 名前

(1) それぞれの外交政策について評価してみよう。

① 周辺の国々との関係（教P.162～P.164）

- ①1894年、清との間で日清戦争がおこる。
- ②1895年、下関条約を結び、東アジアへの進出をはじめる。
- ③1902年、日英同盟を結ぶ
- ④1904年、ロシアとの間で日露戦争がおこる。
- ⑤1905年、アメリカの仲立ちでポーツマス条約を結ぶ。

評価○△×	理由

② 東アジアへの進出と韓国の植民地化

- ①1905年、韓国を保護国にして外交権をうばう。
- ②1907年、韓国の皇帝を退位させ、軍政を解散させる。
- ③1910年、「韓国併合」を行い、武力を背景とした植民地支配をおし進める。
- ※学校では朝鮮の文化や歴史を教えることを禁止し、日本史や日本語を教え、日本人に同化させる教育を行った。

評価○△×	理由

③ 不平等条約を改正する 岩倉使節団→欧化政策→国際社会の地位の向上

- ①1894年、陸奥宗光がイギリスとの間で領事裁判権の撤廃に成功する。
- ②1911年、小村寿太郎がアメリカとの間で関税自主権の回復に成功する。

評価○△×	理由

(2) 班のメンバーの意見をまとめてみよう。

	さん	さん	さん	さん	さん	さん	班			クラス		
							○	△	×	○	△	×
場面1												
場面2												
場面3												

外国との関係（今までに判断した内容）

- 岩倉使節団欧米へ
- 周辺の国々との関係（日清・日露戦争）
- 東アジアへの進出と韓国の植民地化
- 不平等条約を改正する

評価項目	A B C D
○国際社会において、日本の地位を確立し、他の国と協力関係を築くことができたか。	
理由	

	さん	さん	さん	さん	さん	さん	班				クラス			
							A	B	C	D	A	B	C	D
内政														
外交														

20世紀前半の日本について考えよう。その1（第一次世界大戦～第二次世界大戦）

3年 組 番 名前

(1) それぞれの外交政策と内政（国内の政治）について評価してみよう。

① 第一次世界大戦と日本（教P.184～P.191）

- ①1904年、ウラエボ事件をきっかけに第一次世界大戦がおこる。
- ②「日英同盟」理由に連合国として参戦する。
- ③中国に対して「二十一条の要求」をだす。→中国の主権をおびやかす。
- ④1920年、「国際連盟」に加盟。常任理事国となり国際紛争の平和的な解決をめざす。

評価○△×	理由

② 大正デモクラシー・広がる社会運動と普通選挙の実現（P.192～P.195）

- ①デモクラシーが喝えられ、自由主義の風潮が高まった。
- ②さまざまな社会運動が活発になる。
- ③1918年、「シベリア出兵」をきっかけに「米騒動」がおこる。※外交
- ④1925年、「普通選挙法」が制定され選挙権が「25歳以上のすべての男子」になる。
※女性には選挙権が与えられていない。
- ⑤1925年、「治安維持法」が制定され共産主義への取締りが強められる。

評価○△×	理由

③ 世界恐慌後の日本（P.198～P.201）

- ①1929年、アメリカから「世界恐慌」がおこる。
○アメリカ「ニューディール」○イギリス・フランス「ブロック経済」
○ドイツ・イタリア「ファシズム」
- ②1930年、ロンドン軍縮会議で軍縮条約を結んだ「浜口雄幸首相」が襲撃される。
- ③「満蒙は日本の生命線」であると満洲の支配を強めていく。

評価○△×	理由

20世紀前半の日本について考えよう。その2（第一次世界大戦～第二次世界大戦）

3年 組 番 名前

(1) それぞれの外交政策と内政（国内の政治）について評価してみよう。

⑤ 第二次世界大戦と日本（P.206～P.213）

- ①1939年、ドイツがポーランドに侵襲したことがきっかけとなり「第二次世界大戦」がおこる。
- ②1940年、ドイツ・イタリアと「日独伊三国軍事同盟」を結ぶ。
- ③1941年、ハワイの「真珠湾奇襲攻撃」をきっかけに「太平洋戦争」がおこる。
○1942年、6月「ミッドウェー海戦」敗北
○1943年、2月「ガダルカナル島」敗北
○1945年、3月「東京大空襲」、○「沖縄戦」
○1945年、「ポツダム宣言」を拒否
○1945年、8月6日「広島に原子爆弾」投下。8月9日「長崎に原子爆弾」投下。
○1945年、8月14日「ポツダム宣言」を受諾
→8月15日、国民に「玉音放送」で知らせる。→第二次世界大戦の終了

評価○△×	理由

⑥ 満洲事変から戦時中の国内の様子と国民生活（P.202～P.213）

- ①1932年5月15日「大森殺害事件」が海軍青年将校に暗殺される。「五、一五事件」
- ②1936年2月26日陸軍青年将校が首相官邸や皇居を襲撃。「二、二六事件」
- ③1938年、「国家総動員法」を公布し、国民生活のすべてにわたって戦争に動員できるようにする。
- ④1940年、政党が解散され「大政翼賛会」が結成される。
- ⑤軍需品の生産が優先され、生活必需品の生産が圧迫され、砂糖・マッチ・木炭・綿製品などが切符制になり、米も配給制になる。
- ⑥「ぜいたくは敵だ」など節約をうったえる標語がつけられる。
- ⑦兵士が不足したため「学徒出陣」労働力が不足したため「勤労動員」、空襲から逃れるために「集団疎開」が行われる。
- ⑧情報は政府の統制下に置かれ、国民は正確な情報は知らなかった。

評価○△×	理由

(2) 班のメンバーの意見をまとめてみよう。

	さん	さん	さん	さん	さん	さん	さん	班			クラス			
								○	△	×	○	△	×	
場面5														
場面6														

④ 満洲事変から日中戦争（P.202～P.205）

- ①1931年、「満洲事変」がおこる。→「満洲国」を建国し、皇帝に溥儀を迎える。
- ②1933年、国際連盟の勧告に従わず、「国際連盟を脱退」する。→国際社会から孤立化
- ③1937年、「盧溝橋事件」をきっかけに「日中戦争」がおこる。

評価○△×	理由

(2) 班のメンバーの意見をまとめてみよう。

	さん	さん	さん	さん	さん	さん	さん	班			クラス		
								○	△	×	○	△	×
場面1													
場面2													
場面3													
場面4													

20世紀後半の日本について考えよう。その3（国際社会への復帰と経済復興）

3年 組 番 名前

(1) それぞれの外交政策と内政（国内の政治）について評価してみよう。

① GHQの戦後改革と民主化（P.226～）

- ①「農地改革」「財閥解体」「普通選挙の実現」など民主化政策が行われる。
- ②「日本国憲法」が公布（1946.11.3）・施行（1947.5.3）される。
- ③「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」の三つの基本原則
- ④「教育基本法」「労働基準法」「民法」
- ⑤日本の非軍事化が行われる。



評価○△×	理由

② 国際社会への復帰（P.232～）

- ①1951年、サンフランシスコ平和条約により独立を果たす。
- ①1951年、日米安全保障条約を結びアメリカとの関係が強くする。
- ③1956年、日ソ共同宣言により、ソ連と国交を回復する ※北方領土は未解決
- ④これにより、国際連合の加盟が実現する→国際社会への復帰
- ⑤1960年、新安保条約をめぐり「安保闘争」がおこる。日米関係がより複雑なものになる。
- ⑥1965年、日韓基本条約により、韓国と国交を回復する。
- ⑦1972年、日中共同声明により、中国と国交を回復する。
- ⑧沖縄が本土復帰を果たす。※米軍基地の問題は未解決
- ⑨1978年、日中平和友好条約により、中国とのよりよい関係の構築をめざす。



評価○△×	理由

③ 経済の復興 (P.232～)

- ①戦後の混乱「食糧」「物不足」「闇市」「買出し列隊」
 ②1950年、朝鮮戦争による「特需景気」
 ③1950年代後半から「高度経済成長期」になる
 ※人口の過密・過疎化・都市問題・公害問題（公害対策基本法の制定・環境庁の設置）
 ④1964年、「東京オリンピック」※アジアで初めてオリンピックが開催される。
 オリンピックに合わせて東海道新幹線開通
 ⑤1968年、GNP（国民総生産）がアメリカに次いで第2位に
 ⑥1973年、第四次中東戦争の影響で「石油危機」に、これにより「高度経済成長期」が終了。
 ⑦「バブル景気」により株価や土地の価格が高騰→バブル崩壊により経済が混乱

戦後すぐの国内の様子



経済復興の様子



評価○△×	理由

(2) 班のメンバーの意見をまとめてみよう。

	さん	さん	さん	さん	さん	さん	さん	さん	班			クラス		
									○	△	×	○	△	×
場面1														
場面2														
場面3														

感想 自由記述

(2) 班のメンバーの意見をまとめてみよう。

	さん	さん	さん	さん	さん	さん	さん	班				クラス			
								A	B	C	D	A	B	C	D
内政															
外交															

友人の意見で考え方が「深まった」「変わった」「夢中になった」ものを書いてみよう。

感想 自由記述

資料5 ◎今までの学習を通して、「近現代の政治」を評価してみよう。

3年 組 番 名前

- (1) いよいよ歴史のまとめです。公民の学習につなげるために、日本の国が大きく変化した大正から昭和を振り返ってみましょう。

国内の政治（今までに判断した内容）

- 大正デモクラシー・広がる社会運動と自治選挙の実現 (P.192～P.195)
 ○海州事変から戦時中の国内の様子と国民生活 (P.202～P.213)
 ○GHQの戦後改革と民主化 (P.226～)
 ○経済の復興 (P.232～)

A 評価する B どちらかという人评价する C どちらかという人评价しない D 評価しない

評価項目	A B C D
○日本を豊かにしていくために政治を行っていたか。	
理由	

外国との関係（今までに判断した内容）

- 第一次世界大戦と日本 (教P.184～P.191)
 ○世界恐慌後の日本 (P.198～P.201)
 ○海州事変から日中戦争 (P.202～P.205)
 ○第二次世界大戦と日本 (P.206～P.213)
 ○国際社会への復帰 (P.232～)

評価項目	A B C D
○国際社会において、日本の地位を確立し、他の国と協力関係を築くことができたか。	
理由	

◎今までの学習をいかして「よりよい未来に向けて」考えよう。

3年 組 番 名前

- (1) あなたが抱えている（感じている）、日本や世界の課題はどんなことですか？
 ※ 図案書きでもかまいません。

- (2) 課題の解決に向けて、「自分自身ができること」「日本の国としてできること」を覚えてみよう。

※ (1) の中からいくつかピックアップして書いてみましょう。

課題	「自分自身ができること」「日本の国としてできること」

(3) 班で意見交換をしてみよう。(友人の意見をメモしてみよう)

さん	さん	さん	さん	さん	さん

(4) 課題を一つにしぼって、話し合いを深めてみよう。

班で話し合った課題	「自分自身ができること」「日本の国としてできること」

資料6 「近代の政治について評価してみよう」指導案（略案）

（1）目標

- ・近現代の政治について「評価」「判断」しその根拠を述べることで、歴史的事象を多面的・多角的に考察することができる。【社会的な思考・判断・表現】
- ・歴史的事象を大観してとらえることで、これからの社会について自分自身の役割を考えることができる。【社会的事象に対する興味・関心・意欲】

（2）展開

学習活動と内容	時配 (形態)	指導上の留意点 支援○ 評価◎ 仮設との関わり☆	教具・資料
1 近現代について学習した内容を振り返り、本時の学習目標を提示する。	5分 (一斉)	○スライドで学習内容を振り返る。 ○ワークシートに今までに「判断」「評価」した場面を記述し、振り返りをしやすい	スライド ワークシート
学習目標 今までの学習を通して「近代の政治」を評価してみよう。			
2 個人でワークシートに近現代の内政と外交について「評価」「判断」をし、その根拠を記述する。	15分 (個別)	○内政と外交について考えやすい方から書くように助言する。 ☆仮設（1） 自分の考えを可視化してまとめる。 ◎自分の考えについて根拠をもとにまとめることができたか。	ワークシート
3 班で、近現代の内政と外交についての評価と根拠を発表し、共有する。また、班員の「評価」や「判断」した内容をワークシートに集計する。	15分 (班)	【思考・判断・表現】 ○全員が内政について発表し、その後外交について発表する。 ☆仮設（2） 自分の判断をもとに話し合う。 ○友人の意見で考え方が「深まった」「変わった」「参考になった」ものについてメモをとるように助言する ○話し合いが終わった班は、集計結果を報告する。	ワークシート
4 班で代表者を決定し、全体に発表する。	5分 (班) (一斉)	○各班で代表者を選び、全体に意見を発表させる。	ワークシート
5 感想を書き、本時のまとめとする。	10分 (個別) (一斉)	○数名に発表させる。 ◎歴史的事象を大観してとらえ、これからの社会について自分の役割を考えることができたか。【興味・関心・意欲】	

資料7『近現代の政治』を評価してみよう（生徒の記述）

「根拠をもとに、『評価』『判断』する学習の実践」のまとめである「近現代の政治」についての生徒の意見である。生徒は、学習した内容を自分の中でまとめ記述している。過去を振り返り現在を考えたり、現在の社会情勢を過去のできごとに重ねたり、自分自身が将来どのように行動すべきかが述べられていたりした。

(1) 国内の政治

- 大正デモクラシーや広がる社会運動、普通選挙法など国民の動きがより活発になり良い雰囲気になっていったから。満州事変や戦争、公害問題など人々が苦しめられた時もあったが、それらを乗り越えて高度経済成長をとげた日本はとても成長したなと思ったから。これらのことをきっかけに、国民は日本をもっと豊かにしようと思えることができたのがすばらしい。(A)
- 戦争中の生活はとても苦しく、大変なものだったが、戦争が終わって選挙権が女性にも与えられたり、農地改革や財閥解体、また、新しい憲法が定められたりと、新しく国を作り直そうとした様子が見られたから。さらに「戦争放棄」という言葉や「非核三原則」が国の方針となり、戦争はしないという意識が見られたから。(B)
- 初めは「力で国を豊かにする」という考え方で、平和をおびやかしたり、国民を巻き込んだりしてしまっただが、戦争後はアメリカに支えられながらも、戦争から立ちなおるばかりか、ものすごい発展があり、すばらしいと思いました。(B)

(2) 外国との関係

- 国の地位や権力のために外国をおびやかしてしまったことは永遠に繰り返さぬように意識しなければならない問題だと思う。また、条約を結んでいるものの、日本に対して良い感情をもっていない東アジアの人々もいるので、それも解決すべき課題だと思う。(B)
- 日本はどちらかというと地位を優先し、協力関係を築こうとしていないと思ったから。勝手に中国に要求をだしたり、満州国をつくったり、朝鮮を支配しようとしたのはそのためだと思う。WW2のとき日本が独・伊と同盟を結んだのはその2ヶ国が戦争で有利な状況だったからだともうから、結局協力のためではなかったと思う。そんな、めちゃくちゃなことをしたのに、戦後他の国が許してくれ、ちゃんと協力のために同盟を結ぶことができたので他の国は優しいなと思う。これまでも、これからも日本は弱いから同盟関係次第で戦争に参加するかも知れない状況になるなど日本の運命が左右されると思う。(C)

(3) 自由記述での「学習活動」に関する生徒の意見

- 自分の意見とは違う意見があって話し合いがおもしろかった。戦中・戦後と今の社会を比べて意見を書くのも「良い書き方だな」思った。
- 今まで意見交換をしてきて、自分とは全く違う意見に納得し、同じ意見でもその人が使っている言葉がとても参考になった。また、それが学習にいかせたのでとても良かったと思った。なので今回の意見交換でも自分でも自分が考えていることとは違うところも理解できたので、今後の学習にいかしていきたいと思った。
- いろいろな人の意見があり、さまざまな視点から考え聞くことができて良かった。外交に関しては、色々な意見を聞くことができた。次回やることがあれば、他の視点からも書いていきたいと思った。

○今回出た友だちの意見などで自分の考え方など深まりより良い考えが出そうであった。この学習により、また新しく学べたり、考えることでより知識が増えたりしたことが良かった。

○他の班の発表を聞いて、様々な考え方があるのだと思った。自分の考えと比べてみると、共通点や反対の視点などがあり聞いていておもしろかった。

○友だちの意見を良く聞いて、もっと良い考え方を書けるようにしていきたいです。

○色々な意見が聞けてよかったです。1つの課題でも一人ひとりの意見がちがって、10人いれば10通りの考え方があるとわかりました。

○考える範囲が広いことでこの時代についてとらえる事ができたと思う。周りの意見を聞くと「ああそうだな」と感じる所もあったが、譲れない所もあった。

○BとCが多いなと思った。そこまで良くもないし悪いだけでもないと思った。Dと評価する人が少ないのは良いことだなと思った。自分の班の意見だけではなく、他の班のMVPの人の意見も「そんな視点から見れば確かにそうかもしれない」と思うことがたくさんあった。戦後の復興を良く評価する人がほとんどだった。戦後の悪さよりも、戦後の復興などのことが大切だと思った。

(4) 自由記述での「近現代の政治」に関する生徒の意見

○日本は今平和です。しかし、世界には戦争が続いています。日本は戦争をしないと言っていますが、それは日本だけでいいのかなと思います。どういった形でも戦争を止めることはできると思います。

○今まで戦争という罪をおかしてしまったが、その後その経験をいかし、戦争のない平和な社会をめざすことができたのは素晴らしい。今の政治は何かとおそれて行動に移すことができていないので、(戦争は)よい教訓だったと思う。これからの政治は、どれだけ良いことを考えて計画しても実行に移さなければ無意味なことなのでよく考えて案が出てきたのなら実行していかなければいけないと思う。

○国内政治や外国との関係など、この時代は日本にとって苦しみの多い時代だと思った。さらに、昔の日本は利益を得るために手段を選ばない国に感じた。また、今の世の中になっても核開発やテロ・紛争・貧富の差も激しいと感じた。まだ戦争の怖さを知らない人がいるなら、私たちが戦争によって大切なものが失われるという事実を伝えたいと思った。

○今まで「戦争は絶対におきてはいけない」としか思っていなかったが、今回の学習を通してその反省があったからこそ、世界平和をめざすことができたり、他国との関係がより良いものになったりと少しはメリットがあるということを初めて知った。今、このように平和に暮らしているのは昔の人々のおかげということを改めて感じる事ができた。

○大正時代や昭和時代の時は、一番現代に近づいた革新的な時代だったと思いました。この時代の人々が築き上げてきた平和な世の中や風潮を私たちが崩さないように、そして、もっと日本を豊かに、さらなる発展や平和もめざしてこれからの日本を「担って」いけるようにもっと勉強して立派になろうと思いました。

○今自分たちが生きている時代にも大きく関係する大切な時代で、それをまとめて意見を出し合うことができてよかった。自分たちが生きる時代がどのようにしてできたか、また、自分たちがこれから生きていくうえで何が重要なのか考えさせられるものだったと思う。